茨城大学地質情報活用プロジェクト

教育・研究　地域交流
課外活動

代表者：理学部理学科地球環境科学コース　４年　小沼　早織

連携先

北茨城市，大子町，高萩市，常陸太田市，常陸大宮市，山本直洋（カメラマン），筑波銀行，茨城県北ジオパーク商品開発ワーキンググループ（WG），K5 ART DESIGN OFFICE グラフィックデザイナー　甲高美徳，亀印製菓（株），（株）カスミ，（株）セイブ，茨城県北ジオパークインタープリター WG

顧問教員

天野　一男（理学部・教授）

参加者

小沼　早織（理学部　理学科　地球環境科学コース４年）
郡山　鈴夏（　〃　）
林　美咲（人文学部　社会学科４年）
福田　貴大（理学部　理学科　地球環境科学コース３年）
松久　祐子（　〃　）
福永　智恵（理学部　理学科　地球環境科学コース２年）
今泉　利架（理学部　理学科　地球環境科学コース１年）
遠藤　史隆（　〃　）
北原　遼太（　〃　）
杉野　伊吹（　〃　）
山本　啓介（　〃　）
前田　知行（理工学研究科　理学専攻　地球環境系　修士１年）
澤畑優理恵（理工学研究科　理学専攻　地球環境系　修士２年）
細井　淳（理工学研究科　宇宙地球システム科学専攻　博士３年）

プロジェクトの概要

従来，地質情報は防災やインフラ整備などに活用されてきたが，近年では地質情報は地域の文化や教育・観光などに関連させて地域振興を目指す事業に活用されている。それが“ジオパーク”である。地質情報を活用した事業は国内外問わず年を追う毎に盛んになっている。

本プロジェクトは茨城県北周辺地域においてマップ（案内パンフレット）の作成とツアーを実施し，地域貢献活動を行なってきた。2010年，茨城県北ジオパーク推進協議会発足後は，マップや看板の作成等で茨城県北ジオパークを支援し，2011年９月，茨城県北ジオパークは日本ジオパークに認定された。これらの活動は学内外から高い評価を得ている（全国地質調査業協会奨励賞，2008年；日本地質学会学術大会優秀ポスター賞2008年，2010年；日本地質学会関東支部功労賞，2012年）。

2013年度，私達は“産官学民金”それぞれの立場を活かした連携を行い，本格的な地域貢献活動を展開した。北茨城市，筑波銀行と連携して茨城県北ジオパークのジオサイトの見どころを紹介する看板の作成，各地域の地元ガイドと連携をとり，「地質観光まっぷ」をジオパークのマップとしてより充実し

たものにするためのマップの修正等である。2014年度は昨年度の経験・実績を活かし，“産官学民金”の連携をより一層深め，発展的に活動を実施した。

プロジェクトの成果報告

今年度行なった活動は以下の４つである。

（1）茨城県北ジオパークプロモーションビデオ作成

従来，茨城県北ジオパークには，他のジオパーク同様に，プロモーションビデオ（以下PV）を持っていた。今回は，他のジオパークとの差別化を図るとともに，茨城県北ジオパークの認知度向上と集客効果を高める為に新たなPVを作成した。PVの作成にあたり，プロカメラマンの山本直洋氏，筑波銀行，各市町村と連携した。新たなPVはエンジン付きパラグライダーによる空撮と地上からの映像を組み合わせたものになった。本プロジェクトがPVのストーリー等を組み立てて全体の監修を行い，筑波銀行はPVの制作資金の一部負担と撮影の立会い，各市町村にはパラグライダーの離着陸地点等の手続きをしていただいた。地上からの映像だけではなく，上空からの映像を用いたことにより，PVの迫力が増し，観光面だけでなく地質学的特徴も取り入れて茨城県北ジオパークの魅力を紹介することができた。今後，完成したPVは筑波銀行各支店，茨城県北ジオパークサテライト，各イベント等で放映する予定である。銀行支店など，一般の方々の目につきやすい場所で放映することで，茨城県北ジオパークの認知度向上，集客効果が大きく期待できる。

パラグライダーを用いた空撮の様子

山本氏による撮影の様子

PVの空撮映像一部抜粋

（2）茨城県北ジオパーク初の公式商品開発

お土産は観光地を象徴するものであり，その場所に行った思い出になるものでもある。従来，茨城県北ジオパークには，お土産になるような独自の商品が存在しなかった。しかし近年，ジオパークを支援するユネスコがジオパークの条件として「特産品の開発」を求めている。本プロジェクトでは，茨城県北ジオパーク初の公式商品となる「ジオどら」を開発した。開発にあたり，地元企業である亀印製菓(株)，(株)カスミ，(株)セイブ，甲高美徳氏（茨城大学OB，デザイナー），茨城県北ジオパーク商品開発ワーキンググループと連携をとった。本プロジェクトが「ジオどら」のパッケージ，焼印，広告POPのデザインを行い，デザイナーの甲高氏にはそれらのデザインへのアドバイスをしていただいた。亀印製菓(株)にジオどらの生産をしていただき，流通の面で(株)カスミ，(株)セイブに連携いただいた。学生（本プロジェクト）との連携で茨城県北ジオパーク初の公式商品を開発したことは話題を集め，茨城県庁にて県知事を表敬訪問しジオどら開発の報告，記者会見を行なった。その後茨城新聞や毎日新聞など，多くの新聞記事，ニュースに掲載された。茨城県北ジオパークの知名度向上に大きく貢献することができたと考える。2015年２月現在，茨城県内の亀印製菓，カスミ，セイブ，茨城県庁，茨城空港，茨城大学生協等の33か所で販売されている。今回の商品開発を通して，産学民の繋がりが確立され，今後のジオパーク関連商品開発への大きな足掛かりをつくることができた。

開発した「ジオどら」

作成した「ジオどら」広告POP

茨城県知事表敬訪問の様子

記者会見の様子

（3）茨城県北ジオパークサミット開催

茨城県北ジオパークを活用した地域振興を行うためには，産官学金民の連携をさらに確立させる必要がある。2011年，茨城県北ジオパークが日本ジオパークに認定されてからは，県内各地域でツアーの開催等の活動が活発化してきている。しかし，各地域地元ガイドや地元企業，銀行，一般市民が一堂に会して意見交換を行う場はこれまであまりなかった。各組織間での連携を確立させるためには，情報共有，意見交換を行うことは重要であると考え，今回，本プロジェクト主催の「茨城県北ジオパークサミット」を開催した。サミットでは，ジオパークの重要なカギの一つである「ジオツアー」に焦点を絞り，討論を行った。サミットの前半に，「ジオツアー」「広報」「教育」「グッズ」の４つの分野に分かれて討論を行ない，現時点の活動状況や課題点を挙げた。サミット後半では「ジオツアーを成功させるために各分野ができること」というテーマで全体のとりまとめを行なった。サミットには，茨城県北ジオパーク地元ガイド（インタープリター），筑波銀行，地域住民の総勢約40名が参加した。参加者それぞれの立場で情報共有をしたことで連携が強化され，茨城県北ジオパークの活性化に貢献することができた。

サミットの様子

サミットの様子

(4)「地質観光まっぷ」修正

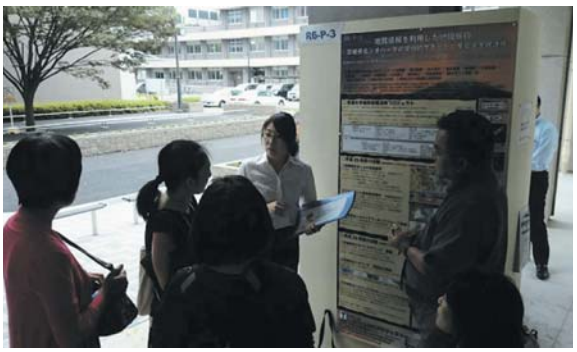
常陸太田ジオサイトは広域なジオサイトである。従来，常陸太田ジオサイトの紹介はマップ一つで説明してきたが，多様なジオ(地質)が存在し，マップ一つでは内容を網羅することができていなかった。また，ジオパークのマップにより一層適したものにするために，地質の情報だけではなく，その地域に関わる文化や歴史，動植物の情報もマップに組み込む必要があった。そこで今回，常陸太田市市街地～阿武隈山地（真弓山）周辺を対象に絞った新しいジオサイトマップ「ジオサイトマップ常陸太田その２」を作成した。マップの作成にあたり，本プロジェクトがジオの情報提供とマップ作成，地元ガイド（インタープリター）が動植物や歴史文化の情報を提供した。完成したマップは常陸太田市が負担し出版していただく予定であり，既に来年度の常陸太田市の予算に組み込まれている。

マップの打ち合わせの様子

作成したマップ表紙面

６月に開催されたジオツアーの補助

作成したマップ裏面（マップ面）



日本地質学会にてポスター発表

その他，茨城県北ジオパーク内で開催されたジオツアーやイベントの補助，サイエンスアゴラや日本地質学会等に参加し，本プロジェクトならびに茨城県北ジオパークのPR活動も行なった。

まとめ

今年度，本プロジェクトは「産官学金民連携の確立」を念頭に活動してきた。PV作成，商品開発，サミット開催，マップ開発の活動を通じ，学外の様々な組織や企業と連携を取ってきた。一つの物を作るために互いに役割分担をしてうまく連携できたことで，地質情報を活用した真の地域振興に一歩近づくことができた。今後も各組織と密接に連携し，茨城県北地域を盛り上げていきたい。